

日本共産党
市議団
6月定例会

公共施設再編と民間活力導入で、市(公)の役割どこに!?

“町田駅周辺5つの再編プロジェクト”

—市民不在の計画は見直しを



町田駅周辺公共施設の再編プロジェクト図

市は、多摩都市モノレール延伸と連動した「町田駅周辺での公共施設再編」を計画。(A)2つの美術館と芹ヶ谷公園の一体的整備、(B)2つの保健施設の集約、(C)教育センターの複合化、(D)産業支援施設の複合化、(E)図書館の集約の5つ。採算が不明朗なモノレール計画推進の一方、市民生活に必要な公共施設を縮減し、民間活力導入を進めるのは市民サービスの大きな後退につながります。



住宅地に設置された市の横断幕

芹ヶ谷公園「一体的整備」、図書館集約に市民は反対

芹ヶ谷公園の「一体的整備」へ、樹木500本を伐採し、国際版画美術館の一部を壊して版画工房と喫茶店を追い出し、国際工芸美術館と体験棟を40億円もかけて整備する計画に市民は反対しています。さるびあ図書館は、存続を求める請願が採択されているのに、駅前再開発に合わせて中央図書館と集約する計画です。市民の声を聞かない「計画」は市民参加で見直すべきです。

モノレール延伸と連動した町田駅周辺の公共施設再編

町田市議会2022年第2回定例会が、6月2日から30日まで行われました。石阪市長は、令和4年度施政方針で、2040年に向け、「共創」「デジタル化」、「公共施設再編」を

生涯学習センターなど民間活力導入を検討

町田駅周辺では他にも公共施設再編が計画されています。ふれあいまつこく館(機能整理)、せりがや会館(他施設へ移転)、町田駅前連絡所(縮小・廃止)、市民フォーラムや生涯学習センター(民間活力導入)、シバヒロ(市有地活用)の検討が2022〜26年度に行われます。検討の視点を「民間事業者とのコラボレーション」としており、民間で利益の出ない公共サービスは削減の対象になりかねません。



中心市街地と原町田大通り

推進すると述べました。市民の理解が得られていない芹ヶ谷公園パークミュージアム計画事業費が盛り込まれた一般会計補正予算に、日本共産党は反対しました。

「(仮称)子どもにやさしいまち条例」制定へ

町田市は、子どもの権利を位置付ける「(仮称)子どもにやさしいまち条例」について2023年度制定をめざし取り組むと表明しました。子どもの権利に関する条例の制定については、共産党市議団として求めてきたものです。田中美穂市議は、一般質問で条例制定のプロセスの段階からアンケートの作成などに、当事者の子どもたちが関わって作ることが必要だと求めました。子ども生活部長が、検討部会に高校生、大学生が参加している、子どもセンターでヒアリングを行なっていくと答弁しました。「子どもの権利条約」の具体化がなされるように、引き続き皆さんと取り組んでいきます。